

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Sufficiency "jiu(就)" and dificiency "cai(才)" : a study of co occurrence relations between "jiu(就)", "cai(才)" and sentence-final particle "le(了)"

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 下地, 早智子, Shimoji, Sachiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/481">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/481</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 〈充足〉の“就”と〈不足〉の“才”：

“就”“才”と“了<sub>2</sub>”の共起関係に関する一考察<sup>1)</sup>

下 地 早智子

サマリー：小稿では，“就”“才”が“了<sub>2</sub>”との共起関係において対立的な振る舞いを見せる現象について，“就”“才”の幾つかの用法と“了<sub>2</sub>”のモーダルな用法に関するこれまでの研究蓄積を整理し，さらに“才”と“了<sub>2</sub>”が共起する「例外」を分析することを通して，主に以下の二点を主張する。(一) “就”“才”は，数量や時間といった客観的数値のスケールにおいて，事態の実現点に対する予測値が対立する場合に加えて，事態実現の望ましさ等に関する主観的評価のスケールにおいて，実現点が話し手の期待値を充足しているか(“就”)，期待値を満たしておらず不足しているか(“才”)，に関する対立を表す場合がある。(二) “就”と共起し“才”と矛盾する“了<sub>2</sub>”は，事態が客観的に変化の境界を越えたことを表す場合の他に，主観的評価のスケール上において，話し手の事態に対する評価が期待値を超えたことを表す場合がある。

キーワード：客観的数値のスケール，主観的評価のスケール，期待値，正負の方向

## 0. はじめに

よく知られるように，“就”は事態の実現の如何を問わず“了<sub>2</sub>”と相性が良いが，“就”と意味的に対立する“才”の用いられる文は，たとえ已然の

事態を表す場合であっても文末に“了<sub>2</sub>”を用いることができない。

- (1) a. 演出七点半开始, 他七点就到剧场\*(了)。(早)  
(7時半開演のところ, 彼は7時にもう劇場に着いていた。)
- b. 演出七点半开始, 他八点才到剧场(\*了)。(晩)  
(7時半開演のところ, 彼は8時にようやく劇場に着いた。)
- (刘月华等 2001: 247)
- (2) a. 他就来 (了)。  
(彼は もう 来る / 来た。)
- b. 他才来 (\*了)。  
(彼は やっと 来た。)
- (白梅麗 1987: 390)

しかしながら, ごく少ない頻度ではあるが, 比較的信頼できる言語資料の中からこのルールに対する例外が見つかることがある。<sup>2)</sup>

- (3) 他吃了两碗饭才不吃了。(陈立明 2005: 17)  
(彼は二碗食べて, ようやく食べるのをやめた。)
- (4) 好说歹说才把他打发走了。(张谊生 2000: 119)  
(あれこれ言いくるめてようやく彼を追い払った。)
- (5) 这一说, 袁九斤才明白了。(岳中奇 2000: 26)  
(このように言って, 袁九才はようやく納得した。)
- (6) “……看他没事, 我才放心了。”李妈妈回忆。  
(新华网奥运频 [http://www.eol.cn/huaxu\\_7542/20080812/t20080812\\_316283.shtml](http://www.eol.cn/huaxu_7542/20080812/t20080812_316283.shtml) 20080922)<sup>3)</sup>  
(あの子が無事だったので, それでようやく安心したんです。)
- (7) 大风到晚上才住了。(《词典》: 114)  
(大風は夜になってようやく収まった。)

副詞“就”“才”と“了<sub>2</sub>”の共起問題については, 既にかかなりの研究の蓄積があり, 特に両者の認知的な意味の対立については啓発に富む先行研究が少なくない。“就”“才”の複雑多岐な用法とそれらの間の関連は, 次第に解明されつつあると言えるだろう。しかしながら, 上記のような「例外」的な

例に言及する研究はまだそれほど多いとは言えないようである。小稿では、「例外」的な例を視野に含めることによって、“就”“才”と“了<sub>2</sub>”のモーダルな用法の関係を再検討する。第1節では、“就”“才”の基本的な用法について整理する。第2節では、“才”と“了<sub>2</sub>”の共起する例について、2.1節で構造的に説明できる例、2.2節で構造的には説明の不可能な例を示す。最後に第3節において、2.2節のような例の生じる理由を考察し、その理由に基づいて、当該の副詞と文末助詞“了<sub>2</sub>”の用法について新たな提案を行う。

## 1. “就”“才”の基本的な用法

### 1.1 時間と数量に関する用法

本節では、“就”“才”の数値のスケールに関わる用法を簡単に整理する。

#### 1.1.1 早/少の“就”vs. 晩/多の“才”

前掲の(1a)において、“就”は事態の実現時点が予測よりも早いことを表している。刘月华等(2001:247)の説明によれば、この文から“了<sub>2</sub>”を削除することはできない。これに対して、(1b)の“才”は事態の実現時点が予測よりも遅いことを表しており、この文には“了<sub>2</sub>”を付けることはできない。次の(8)は数量に関する例文である。

(8) a. 张三吃三个苹果就饱\*(了)。 (少)

(張三はリンゴを三個食べるともう満腹した。)

b. 张三吃三个苹果才饱 (\*了)。 (多)

(張三はリンゴを三個食べるとようやく満腹した。)

(《八百词》, Biq 1988, 陈立民 2005)

(1a)と同様に、“就”を用いた(8a)は、張三が食べたリンゴの数量が予測より少ないことを表しており、文末の“了<sub>2</sub>”を省略することができない。逆に“才”を用いた(8b)は張三が食べたリンゴの数量が予測より多いことを示しており、(1b)と同様“了<sub>2</sub>”を削除することができない。以上により、

(1)(8)においては、“就”は実現点に対する予測値が時間的に 早 , 数量上 少 , “才”は時間的に 晩 , 数量上 多 であることを表している。

### 1.1.2 晩/多 の“就” vs. 早/少 の“才”

(9)(10)における“就”“才”の働きは、前節の(1)(8)とは対照的である。

(9) a. 他´起床就五点钟\*(了), 离开车时间还不到半个小时。(晩<sup>4)</sup>)

(彼が起きるともう5時で、出発の時間まで30分もなかった。)

b. 他起床才五点钟\*(了), 天还灰蒙蒙的。(早)

(彼が起きるとようやく5時になったところで、まだ夜が明けていなかった。)

(10) a. 小王(十五岁时)身高就一米七\*(了)。(多)

(王さんは(15歳で)身長がもう170センチだ。)

b. 小王´身高才一米七\*(了)。(少)

(王さんは身長がやっと170センチだ。)

((9)(10)は、岳中奇 2000 : 20からの引用)

(9a)では、“就”は事態の実現時点が予測よりも遅いことを、(9b)では、“才”が事態の実現時点が予測よりも早いことを表しているように解釈される。

(10)について、身長を数量と捉えるならば、(10a)の“就”は数量が予測よりも 多 , (10b)の“才”は 少 であることを表しているように解釈される。

つまり、(9)(10)においては、“就”は実現点に対する予測値が時間的に 晩 , 数量的に 多 , “才”は時間的に 早 , 数量的に 少 であることを表しているといえる。

1.1.1節及び本節の状況から、少なくとも二つの問題点を挙げるができる。

第一に、(1)(8)においては、数量成分は“就”“才”の前にあるが、(9)(10)では後ろに置かれている。前者の語順において、“就”は 早/少 , “才”は 晩/多 を表すが、後者の語順では、 早/少 を表すのは“才”であ

り、 晩 / 多 を表すのは“就”である。

第二に、二つの語順において、“就”“才”は確かに相反する意味を表しているように解釈されるのであるが、“了<sub>2</sub>”との共起関係についての状況は一貫している。すなわち、解釈が 早 / 少 であれ 晩 / 多 であれ、既実現であれば“就”の文には“了<sub>2</sub>”を付さなければならず、解釈が 晩 / 多 であれ 早 / 少 であれ、“才”の文には“了<sub>2</sub>”を用いることができない。

小稿では、特に第二の問題点に着目し、語順の問題については稿を改めて論じたい。

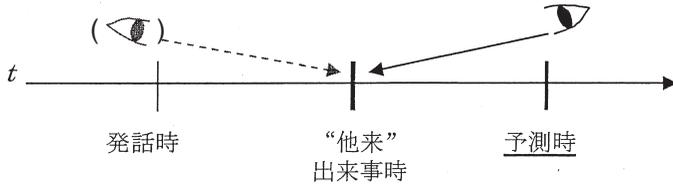
## 1.2 “就”“才”と“了<sub>2</sub>” 従来の説明

最近の成果における“就”“才”と“了<sub>2</sub>”の共起関係についての有力な説の一つとして、陳立民(2005)および王伟(2006)による主張が挙げられる。彼らの主張は、筆者の理解によれば(11)のようにまとめることができる。

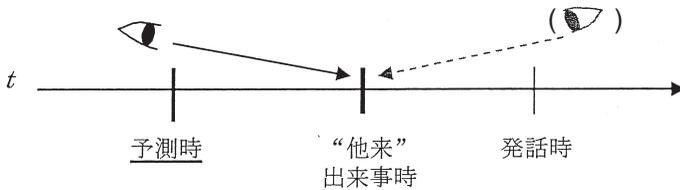
(11) “就”と“才”が用いられるとき、出来事を眺める参照点は発話時から予測時に移行する。

(11)の主張は大凡次のようなものである。発話者がある出来事に言及しようとするとき、通常出来事の参照時点は発話時である。例文(12)でいえば、“他来”という出来事の発生した時点は、発話時から見ると、時間軸上未来の時点である。このため、もし話し手が発話時を参照点として出来事を眺めているのであれば、“了”を用いることができないことになる。しかしながら、(11)に従えば、“就”の参照時点は発話時ではなく予測時となる。予期時を参照時点とするならば、“他来”の発生時間は時間軸上過去の時点であることになり、文末に“了”を付加することができるようになる。すなわち、(12a)の“他就来了”は“他来”という出来事発生の時間が予期した時間より早いことを表しているのであり、文末の“了”も発話時と出来事時の相対関係を表しているのではない。

(12) a. 他就来 (了)。



b. 他才来 (\*了)。



“才”と“了”の関係についても同様に説明することができる。“才”の参照時も“就”と同様に発話時ではなく予測時であると考えられる。そうすると、(12b)の“他才来”が表しているのは、“他来”という出来事の発生が予測時に対して未来の時点に位置するということであり、“了”を付加することができないことになる。

興味深い説明ではあるが、(11)には次のような問題点が挙げられる。まず、彼らの説明は“了<sub>2</sub>”を基本的には発話時と出来事時の前後関係、つまりテンスと捉えることが前提となる。<sup>5)</sup>発話時であれ、予測時であれ、ある文法標識が参照時と出来事時の時間軸上の相対的位置関係を示すものであれば、その標識は時制標識である。“了<sub>2</sub>”が時制標識であるという有力な主張がない訳ではないが、<sup>6)</sup>まだ学界における統一した見解となっているとは言い難いだろう。

また、陳立民2005は、“就”“才”の数量に関する用法についても、出来事に生じた量と予測量の関係から捉えている。(11)の第二の問題点は、(13)のような、“才”の用法を説明しようと試みると混乱が生じる点である。(13)

のBuyer, Seller(b)にそれぞれ用いられる“才”は、文中の数値が予測よりも多いと言いたいのだろうか、少ないと言いたいのだろうか。

(13) Seller(a)：“这本书卖十块钱。”（この本は10円で売ります。）

Buyer：“太贵了。五块钱才买。”

（高すぎます。5元なら（ようやく）買います。）

Seller(b)：“五块钱我赚不了，七块钱才卖。”

（5元では商売になりませんよ。7元なら（ようやく）売ります。）

((13)は Biq 1988 : 92より引用)<sup>7)8)</sup>

## 2. “才”と共起する“了<sub>2</sub>”

本節では、北京大学漢語言語学研究中心 (Center of Chinese Linguistics PKU) が公開する現代中国語コーパス、及びインターネット上から得られた用例を中心に、“才”と“了<sub>2</sub>”が共起する用例を分析する。以下、2.1節で構造的に説明できる例、2.2節で構造的には説明の難しい例を示す。該当例を一定量収集することは困難であったが(注2)を参照)、構造的に説明の難しい例を中心に150例ほどを収集・分析し、これらの例が意味や表現内容に明確な特徴を有することが分かった。なお、小稿で中心的に考察したいのは2.2で取り上げる例の意味論的な特徴であり、2.1節の各例については、確認するのみに留め、統語論的操作等による証明は行わない。

### 2.1 構造的に説明できる例

本節では、基本的に王伟(2006 : 9)による説明方法を用いて、できるだけ多くの例を説明することにしたい。王伟(2006)は、否定の例について、“不V了”には次の二種類の構造が考えられるとする。

(14) a. 我原来吃海鲜，现在不吃了。

（私は、もともとは海産物を食べていたが、今では食べなくなった。）

b. 我当时在吃海鲜，后来突然有事，这才不吃了。

(私はその時海産物を食べていたのだが、それから急に用ができて、それで食べるのを中断した。)

(王伟 2006 : 9-10)

王伟(2006)の説明によると(14a)は、“吃”から“不吃”への変化を表しているので、“[不吃]了”のように分析される。一方、(14b)は“吃了”という実現状態を否定しているので、“不[吃了]”のように分析される。もともと個別事態が実現されていたことを表すので“了”が必要であるが、“才[不[吃了]]”のように、“了”は“不”の構造でブロックされており、“才”の作用が及んでいない。以下(15-18)は、今回収集した否定文の例である。

(15)(=3) 他吃了两碗饭才不吃了。

(16) 过了好长时间，他俩才不打了。

(CCL : 肖华 我和张艺谋的友谊与爱情——《往事悠悠》连载之六)

(何時間も経ってから、彼らはようやく殴り合いをやめた。)

(17) 后来，奶奶给你找了一个玩具小鸟逗你，你才没哭了。你前后哭了半个小时左右，后来又在床上逗你玩了半天，折腾了一个多钟头，总算把你哄睡了。

(<http://q.163.com/lrq999/blog/ynxwhaiyujian/4229646520087195588734/#4229646520087195588734> 2008/08/28)

(それからおばあちゃんが君におもちゃの小鳥を持ってきてあやしたら、君はようやく泣き止んだね。その前後30分間ほど泣いたろうか、ベッドで長いこと君をあやし続けて、一時間以上の苦闘の末、ようやく君を寝かしつけたんだ。)

(18) 有几次他真的就不去学校了，我们费了好大劲哄，直到他提的要求我们都答应他才不闹了。

([http://www.ycen.com.cn/gb/content/2008-04/02/content\\_560644.htm](http://www.ycen.com.cn/gb/content/2008-04/02/content_560644.htm)2008/08/28)

(あの子は何度か本当に学校に行かなくなりました。私たちは苦心  
惨憺でなだめすかして、あの子の要求を全て承諾したら、それで  
ようやく騒ぎをやめました。)

以上(15-18)は、すべて既に実現状態にある事態の中止であることが確認できる。

収集例のうち、上記否定文と同様、“了<sub>2</sub>”に“才”の作用が及んでいないと分析できる例には、連動文、思考動詞などへの埋め込み文、使役構文などがあつた。

(19-20)は連動文の例である。

(19) 唐玄宗这才点头同意了。(CCL: 当代应用文 / 中华上下五千年)

(唐の玄宗は、これでようやく頷いて、同意した。)

(20) 七点钟, 火车喘息着向台儿沟滑过来, 接着一阵空哐乱响, 车身震颤一下, 才停住不动了。(《香雪》: 347)

(七時, 汽車は喘ぎつつ台児溝に滑り込み, 続いてひとしきり騒々しい音をたてると, 車体をぶるっと震わせて, ようやく停止して, 動かなくなった。)

これらの例については、第一動詞句で“才”の作用が途切れている(“[才点头] 同意了” “[才停住] 不动了”)と分析することが可能である。

(21-22)は思考動詞などへの埋め込み文の例である。

(21) 我们一直喝到下午5点, 两瓶“二锅头”基本上喝光了, 才觉得饿了。(《过把瘾》: 357)

(二本の「二鍋頭」をほとんど空けて, ようやく空腹であると感じた。)

(22) 听了你的话我才发现又误会他了。(《作文66》: 67)

(君の話聞いて, ようやく彼を誤解していたことに気がついた。)

これらについては、“了<sub>2</sub>”が埋め込みの内部に生起している(“才觉得 [饿了]” “我才发现 [我误会他了]”)ものと分析することができる。これについて、間接的な証拠に過ぎないが、埋め込みの上位の動詞の後ろに停頓記号が用い

られている用例があった。

- (23) 今年6月の一个夜里, 有人“咚咚”地敲门, 起来开门才知道, 表姐出事了。 (CCL: 当代 / 报刊 / 人民日报)

(ドアを開けてようやく分かった。お姉さんが大変なことになったのだ。)

- (24) 过河后才发觉, 他们都死了。 (CCL: 当代 / 报刊 / 人民日报)

(河を渡ってようやく分かった。皆死んでいたのだ。)

なお、河野(2002: 207)においても“明白”を主動詞とする埋め込み文の例が挙げられ、基本的に同様の説明がなされている。

(25-27)は使役文の例である。

- (25) (= 4) 好说歹说才把他打发走了。

- (26) 19世纪以后, 由于帝国主义列强的侵略和当时国内统治阶级的腐败无能, 才使中国落伍了。 (CCL: 当代 / 报刊 / 人民日报)

(19世紀後, 帝國主義列強の侵略と当時の国内の統治階級の腐敗, 無能が中国を落伍させた。)

- (27) 刘渊向司马颖要求回去带匈奴兵马来助战, 司马颖才让他走了。

(CCL: 当代应用文 / 中华上下五千年)

(劉淵が司馬穎に帰って匈奴の兵馬で援助して欲しいと要求したので, 司馬穎はようやく彼を行かせた。)

使役文については説明が最も困難である。あえて構造上の説明を試みるならば、使役文は歴史的に、連動文か発話動詞の埋め込み文のいずれかを由来としており、(19-20)の連動文や(21-22)と同様に、第一動詞句で“才”の作用が途切れている可能性を考えることができる、といえるだろう。

## 2.2 構造的に説明できない例

本節では、“才”と“了<sub>2</sub>”の共起例のうち、2.1節の方法では説明できない例を示す。『現代漢語詞典』をはじめ、複数の辞書にも“才V了。”の用例が

挙がっているのであるが、複数のネイティブスピーカーに確認したところ、すべて誤用例であり、どちらかといえば“了<sub>2</sub>”を削除した方がより良い、という意見と、全く問題がなく自然な文である、という意見に分かれた。

(28)(=7) 大风到晚上才住了。

(29)(=6) 有一次，母亲潘建国带着小鹏去出席一个朋友的婚礼。那个时候的小鹏，年仅两岁多。就在妈妈跟朋友们一起吃饭聊天的时候，有人跑进去跟李妈妈说，“不好了，你儿子跳楼了。”这可把李妈妈吓坏了，扔下碗筷就跑了过去。“当时，这个朋友家是二楼，不过是平房式的，比较矮，但毕竟才两岁多的小孩，我摸着他的头问他，有没有事。他说，‘没事，好玩。’看他没事，我才放心了。”李妈妈回忆。

(母親の潘建国が鵬少年(シドニーと北京五輪の体操の金メダリスト李小鵬のこ)を連れて友達の結婚式に行ったときのことだ。

(2歳だった鵬少年は母親が目を離した際に階上から飛び降りた。)母親はそのときのことをこう語る。「友達の家は二階建てだったけど、少し低めの建物でした。でも何ととっても2歳の子供ですから、私はあの子の頭をさすって何ともないか聞いたらあの子「平気だよ、面白かった」ですって。あの子が無事だったので、それでようやく安心したんです。」)

この種の例は、用いられる動詞の意味や表現内容に明確な特徴が見出される。CCLにおける調査の過程においても、「オ\*了。」の検索結果に現れた動詞を用いて再検索をかけると、同じ動詞を用いた異なる用例を芋づる式に10例前後得ることができた。また、それらの動詞の同・類義語にも“オ”と“了<sub>2</sub>”の共起例が存在するケースが多かった。それらの動詞とは、「満足する」「安心する」「同意する」「実現する」「叶う」「逃げる」「救われる」「治癒する」「納得する」等の意味を有する動詞類である。以下、「満足する」「同意する」「実現する」「救われる」について、それぞれ二例ずつ掲げる。

### 「満足する」

- (30) 我说：你不嫌绕嘴吗？她说：那就叫它“安置综合症”，我还是嫌它太长。最后约定叫做“综合”，我才满意了。 (《未来》：525)  
(「言いにくくないのか？」と聞くと、彼女は「じゃあ、「安置総合症」と呼びましょう」と言ったが、僕にはやはり長く感じて嫌だった。最後に「総合」と呼ぶことになり、それでようやく満足した。)
- (31) 我心里这才踏实了。  
(CCL：肖华 我和张艺谋的友谊与爱情——《往事悠悠》连载之六)  
(それでようやく気持ちが落ち着いた。)

### 「同意する」

- (32) 还费很大劲劝他跟我一块走，直到我告诉他美国护照抵挡不了子弹他才同意了。 (CCL：人民日报)  
(アメリカのパスポートで弾丸を防ぐことはできないと言うと、彼はようやく同意した。)
- (31) 肯 2 kěn (1) 表示同意：首～ | 我劝说了半天，他才～了。  
(《倒序》：685)  
(長い間説得して、彼はようやく同意した。)

### 「実現する」

- (32) 如果客观环境难以改变，解决冲突的唯一办法也就只能通过自己的主观努力才能实现了。  
(CCL：王登峰；张伯源 大学生心理卫生与咨询)  
(客観的な環境を変えるのが難しいなら、矛盾を解決する唯一の方法は自分の主観的な努力でようやく実現できる。)
- (33) 这件事1973，1974年就开始搞，到打倒“四人帮”后才实现了。  
(CCL：人民日报)  
(この事は1973年1974年には着手されていたのであるが、四人組の

打倒後にようやく実現した。)

「救われる」

- (34) 市政厅被毁于大火和炸弹，而圣保罗教堂全靠大家的英勇努力才得救了。 (CCL：人民日报)

(市政府は火事と爆撃で崩壊したが、聖パウロ教会は皆の勇敢な努力により、ようやく救われた。)

- (35) 解放了，回农村才得救了。 (CCL：人民日报)

(解放され、回族の村はようやく救われた。)

さて、以上に挙げた例には、話し手が出来事の実現を強く希求していた、という共通点があるように思われる。(1-2)に見られるように、“才”は典型的には、出来事の実現条件や先行発話に対する反駁や不満を表明する場合に用いられることが多いが<sup>9)</sup>、(28-35)からは、むしろ発話者のほっとしたような安堵感を読み取ることができる。同じ「満足する」類の動詞を用いた例であっても(36-38)のように“了<sub>2</sub>”の生じない例は、必ずしも話し手の事態実現に対する希求の感情は含まれておらず、「不満」や「嫌々ながらしぶしぶ」といった感情の表明か、または中立的な叙述であり、事態実現に対する安堵感を表しているとは言えない。

- (36) 再仔细地检查一遍，让我们重新打扫，直到清除每一缕棉绒和灰尘她才满意。 (CCL：《读者(合订本)》)

(再度念入りに点検し、私たちに改めて掃除させて、綿埃ひとつなくなってからようやく彼女は満足した。)

- (37) 西北欧的世界霸权实际上直到1763年以后才实现。

(CCL：《全球通史》)

(北欧の世界覇権は、実際には1763年より後にようやく実現した。)

- (38) 结婚他是早就提过了，可是直到那时我才同意。

(CCL：王素萍 她还没叫江青的时候(连载之二十三))

(結婚は彼は早くから提案していたけど、私はその時になってよう

やく同意した。)

以上、構造を用いて説明することのできない“才V了。”の例は、“才”の用例としては周縁的ながら、発話者が安堵感を表明するような文脈において生じていることを見た。

### 3 提案

#### 3.1 主観的評価のスケールにおける対立

本節では、2.2節で見た諸例の生じる要因を明らかにするための準備として、“就”“才”の用法について、次のように提案したい。

- (39) “就”“才”は、出来事の実現の望ましさ等に関する評価のスケールにおいて、実現点が話し手の期待値を充足しているか(“就”), 期待値を満たしておらず、不足しているか(“才”), を表す場合がある。

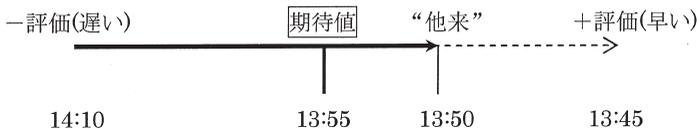
客観的な時間軸においては、時点は過去から未来へ配列されるが、主観的評価のスケールでは、状況によって配列の方向が変化する。すなわち、早いほうがプラス評価の場合は、より以前の時点がプラスの側に配列され、遅いほうがプラス評価の場合は、より以後の時点がプラスの側に配列される。(39)によるならば、1.2節で(11)によって説明された(12)は、(40)のように説明し直されることになる。

(40) (= (12))

a. 他就来 (了)。

(「彼はもう来た」待ち合わせ、会議など早いほうが望ましい場合。)

例えば、14時からの打ち合わせに...



b. 他才来 (\*了)。

(「彼はようやく来た」待ち合わせ、会議など早い方が望ましい場合。)

例えば、14時からの打ち合わせに……



まず、(40a)の“就”について考えてみよう。会議や待ち合わせなど、常識的に“他来”の実現時間が早いほど評価が高くなる状況を想定する。この場合、評価のスケール上において、時点は遅い方がマイナスの側に、早い方がプラスの側に配列される。例えば14時に始まる会議に“他”が13時50分に来たとする。常識的には開始5分前あたりが参加者到着の目安であると想定できるので、彼が来た時間は、プラス評価の方向に話し手、または常識的な期待値を超えていることになる。“就”は、このような主観的評価のスケールにおいて、期待値を充足していることを表していると仮定する。

次に、(40b)の“才”について考えてみよう。(40a)と同様の状況において、“他”の到着時間が14時5分だったとする。そうすると彼の来た時間は、評価のスケール上において話し手の期待値に達しておらず、その値には不足していることになる。“才”は、このような主観的評価のスケールにおいて、期待値を満たしていないことを表していると仮定する。

そうすると、1.2節の(11)では説明の難しかった Biq 1988 の例は、売り手と買い手では価格に対する評価の方向が相反することから、(39)によって以下のように説明することができる。

(41 = (13))

Seller(a) : “这本书卖十块钱。” (この本は10円で売ります。)

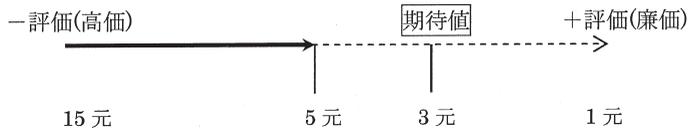
Buyer : “太贵了。五块钱才买。” (高すぎます。5元ならようやく)

買います。)

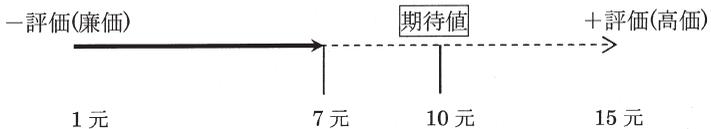
Seller(b)：“五块钱我赚不了，七块钱才卖。”

(5元では商売になりませんよ。7元なら(ようやく)売ります。)

(42) a. Buyer



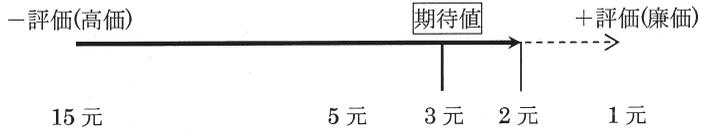
b. Seller(b)



買い手にとっては、価格は安いほど評価が高い。そこで、買い手のスケール上(42a)では価格が高いほどマイナス方向に、低いほどプラス方向に配列される。買い手が“太贵了。五块钱才买。”と発話するとき、話し手の本当に期待する価格がどうであれ、表現上“才”は“五块钱”が話し手の期待値を満たしていないことを主張しており、結果「5元では本当は満足できるわけではないが、そのくらいで譲歩してやる」という「しびしび」感を伝える表現効果が生じる。一方、売り手のスケール(42b)は買い手とは逆になり、価格が低いほどマイナス評価に、高いほどプラス評価になる。売り手が“五块钱我赚不了，七块钱才卖。”と発話するとき、売り手が本当に期待する価格がどうであれ、表現上“才”は“七块钱”が話し手の期待を満たしていないことを主張しており、結果「7元では本当は満足できるわけではないが、そのくらいで譲歩してやる」という表現効果が生じる。買い手の発話に“就”が用いられる場合は、文中の値が望ましい価格を十分に満たしていることを表すものと考えられる。

(43) 两块钱就买了!(2元なら買った!)

Buyer

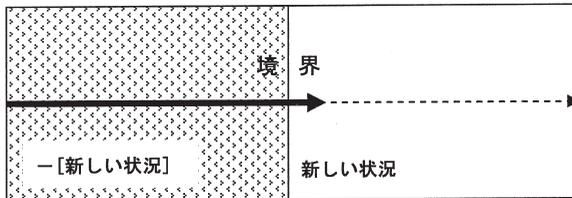


### 3.2 主観的スケールにおける“了<sub>2</sub>”

本節では、“就”“才”の用法に関わる“了<sub>2</sub>”の意味について考察し、さらに“才”が“了<sub>2</sub>”と共起しない理由、及び、2.2で挙げた類の誤用が生じる理由を説明する。

前節で触れたように、典型的には、“就”は満足感や同意、出来事の実現が容易であることを表す場合が多く、“才”は不満感、意見の対立、出来事の実現が困難であることを表す場合が多い。“了<sub>2</sub>”については、Li and Thompson and Thompson (1982)の perfect 説、刘勳宁2002の時制標識説も一定の説得力を有するものではあるが、現在の通説は「新しい状況の出現」を表すという見方であろう。「新しい状況の出現」のイメージスキーマとは、(44)のように捉えられるのではないと思われる。

(44)



“了<sub>2</sub>”：新しい状況の出現

(44)は、客観的状况について「- [新しい状況]」から「新しい状況」への境界を越えたことを主張しており、同イメージは、あるラインを超えるという意味において“就”と一致し、“才”と矛盾するものになる。小稿で取り

扱う副詞との関連から，“了<sub>2</sub>”については以下のことが想定できる。

- (45) “就”と共起し“才”と矛盾する“了<sub>2</sub>”は，事態が客観的に変化の境界を越えたことを表す場合の他に，主観的評価のスケール上で，話し手の事態に対する評価が期待値を超えたことを表す場合がある。

劉綺文2006は，第5節において「充足感の“了”」を提案している。劉綺文2006によると，“我喝了三杯。”は「まだ足りないこと」を表し，“我喝了三杯了。”には「もう十分である」というニュアンスが含まれているという。前者は“才”や“剛”のような「量が少ないこと，すなわち「程度が低いこと」を表す副詞を付けると，より自然になる(劉綺文 2006 : 135-136)」という。むろん，“了<sub>2</sub>”が境界を越える方向は，プラス評価の方向には限られない。

さて，(28-35)の「誤って」“才”と共起してしまった“了<sub>2</sub>”の例を見ると，これらの例は“才”が用いられているにも関わらず，発話内容に対する不満感がなく，むしろ安堵感を読み取ることができた。これらの例においては，出来事の実現時点が期待値を満たさなかったことを主張する“才”と，事態実現への強い希求が充足されたことを表す“了”が意味的に衝突するのであるが，後者を表明したい心理的欲求が勝った結果，思わず「充足感の“了”」が口をついて出てしまい，この種の用例が生じたものと考えることができる。

### 3.3 客観的数値のスケール

1.1.2節で取り上げた「晚/多の“就”」と「早/少の“才”」に対しては，客観的時間軸の方が有効である。

- (46 = (9)) a. 他<sup>レ</sup>起床就五点钟\*(了)，离开车时间还不到半个小时。

(晩)



また、事態実現の遅い方が望ましい場合の“就”についても客観的速度のスケールの方が説明力を有する。

(47) 孩子，你怎么这么快就走了。

(わが子よ、なぜこんなにも急いで逝ってしまったのか。)

文法化という観点から考えると、“就”“才”に関しては客観的数値のスケールの用法が先にあり、主観的評価のスケールにおける用法が後で発展したものであるのではないかと推測される。

#### 4. まとめ

小稿では、“才”と“了<sub>2</sub>”の共起する例外的な用例を分析することを通して、“就”“才”と“了<sub>2</sub>”の意味・用法について幾つかの提案を行った。

“就”は、事態実現に関わる数値がスケール上の期待値を充足することを表す。そのスケールには、客観的な数値(数量や時間等)のスケールと主観的な評価等のスケールが考えられる。“才”は、事態実現に関わる数値がスケール上の期待値に不足することを表す。“了<sub>2</sub>”には変化の境界を越える意味が認められ<sup>10)</sup>、“才”は“了<sub>2</sub>”と意味的に矛盾することになる。“才”と“了<sub>2</sub>”の共起例において、話し手は事態実現に関わる数値が期待値を満たさないの<sup>10)</sup>で“才”を用いるのであるが、事態実現に対する希求がようやく満たされた強い安堵感を吐露するような場合に、思わず「充足感の“了”」を口にしてしまうものと考えられる。

#### 注

- 1) 小稿は、2008年12月、第九届国际汉语教学讨论会(北京国际会议中心)における口頭発表に基づき、当日の討論を参考に加筆・修正を行ったものである。なお、“才”と“了<sub>2</sub>”の共起例を括弧付の「例外」としたのは、口頭発表後に崔希亮、劉月華両氏より、いずれの例も“了<sub>2</sub>”を付さない方が自然であるとのコメントを得たことに基づく。
- 2) 河野(2002)の調査によると、王蒙・王朔・史鉄生の作品から収集した1,545例中、“才”と“了<sub>2</sub>”の共起例は8例(0.5%)、“了<sub>1,2</sub>”との共起例は7例(0.5%)と、極めて少数であったという。
- 3) インターネット上の用例については、インフォーマントに的確性を確認の上、URLと検索の

日時を付した。

- 4) 岳中奇(2000)によると、(9a)と(10a)において、ストレスはいずれも“就”の前の要素に置かれており、ストレスを“就”に移すと“才”と同義の文になるという。“才”と同義になる“就”に関しては、“才”と同様“了<sub>2</sub>”と共起しないので、本稿では議論の対象としない。
- 5) 「了」表示一个事件在过去开始，以说话时间为参照时间。(陈立明2005: 21) (「了」はある出来事が過去に始まったことを表す。発話時を参照時間とする。)
- 6) 刘勳宁(2000)を参照して欲しい。
- 7) Big(1988)自身の結論は、“就”は「容易であること」を表し、“才”は「予期の否定」を表す、というものである。
- 8) (13)の“才”は、日本語訳からも分かるように、条件関係を表す接続副詞であると分析することもできる。しかしながら、(8)と比較すると両者の連続性は明らかである。“就”“才”の多様な用法間の連続性については、施关淦(1988)、玄宜青(1993)を参照して欲しい。
- 9) “就”は対話相手の先行発話に対して「同意」を示す場合に用いられ、“才”は「反駁」を行う場合に用いられることが多い。下地(2009)を参照して欲しい。
  - (i) 好！就这么办！《常用词》：368(オーケー！そうすることにしよう！)
  - (ii) “你傻”——“你才傻。”(「お前はバカだ。」——「お前 が /こそ バカだ。」)
- 10) それが時間軸におけるものなのか、主観的スケール上のものなのかで、“了<sub>2</sub>”の表層的な意味が異なってくるものと考えられる。

#### 用例出典

《八百词》：吕叔湘《现代汉语八百词》/《词典》：《现代汉语词典》2002年増補本，商务印书馆 /《常用词》：《汉语常用词用法词典》1997年第1版，北京大学出版社 /《倒序》：《倒序现代汉语词典》1987年第1版，商务印书馆 /《过把瘾》：王朔 过把瘾就死 《王朔文集1 纯情卷》1992，华艺出版社 /《未来》：王小波 未来世界 《王小波文集 第1卷》1999，中国青年出版社 /《香雪》：铁凝 哦，香雪 《铁凝文集3 六月的话题》1996，江苏文艺出版社 /「作文66」：相原茂2007 『作文ルール66 日中翻訳技法』朝日出版社

#### 参考文献一覧

- 河野直恵 (2002) 「才」と「了」の共起関係について 『中国語学』249号：196-210頁。
- 玄宜青 (1993) 「就」の取り立て用法について 『法政大学教養部紀要 外国語学・外国文学編』85：181-193頁。
- 下地早智子 (2009) 「日本語と中国語のコピュラ文について、——指定文の焦点標式としての“就/才”——」 『汉日理论语言学研究』(學苑出版社)：230-237。
- 劉綺文 (2006) 『中国語のアスペクトとモダリティ』(大阪大学出版会)。
- 白梅麗 (1987) 現代汉语中“就”和“才”的语义语法分析 《中国语文》第5期：390-398。
- 陈立民 (2005) 也说“就”和“才” 《当代语言学》第7卷第1期：16-34頁。
- 刘勳宁 (2002) 現代汉语句尾“了”的语法意义及其解说 《世界汉语教学》第3期：

70-79页。

刘月华等 (2001) 《实用现代汉语语法 (增订本)》商务印书馆。

沈家煊 (1995) “有界”与“无界”《中国语文》第5期: 367-380页。

施关淦 (1988) 试论时间副词“就”《语法研究和探索》北京大学出版社: 187-204页。

王 还 (1956) “就”与“才”《语文学习》1956年12月号。(参照したのは王还《门外偶得集》北京语言学院出版社: 53-55页。)

王 伟 (2006) “就”字句和“才”字句中“了”的隐现 第14次现代汉语语法学术讨论会 (上海财经大学, 2006年10月21日-23日) 报告论文

岳中奇 (2000) “才, 就”句中“了”的对立分布与体意义的表述 《语文研究》第3期。

张谊生 2000 《现代汉语副词研究》学林出版社。

Biq Yung-O (1988), From Focus in Proposition to Focus in Speech Situation: CAI and JIU in Mandarin Chinese. *JCL* Vol.16.No.1:72-108.

Li, Charles, Sandra A.Thompson, R.M. Thompson. (1982). “The Discourse Motivation for the Perfect Aspect: The Mandarin Particle LE.” Paul J. Hopper (ed.), *Tense-Aspect: Between Semantics and Pragmatics*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins,: 19-44.

Marie-Claude Paris (1985). The Semantics of JIU and CAI in Mandarin Chinese. *Computational Analysis of Asian & African Languages*. No.24:181-196.

**中国語タイトル:** 充足の“就”与不足の“才”: 也谈“就/才”与“了<sub>2</sub>”的隐现问题

**中国語サマリー:** 汉语学界对“就”“才”与句末“了”的隐现问题向来关注, 已经积累了一定程度研究成果, 尤其有关“就”与“才”语义或认知上的对立问题不少研究富有启发, 可以说两个副词多种复杂的各种用法解开得愈加全面。本文根据以往研究的成果为基础, 通过分析“才”与句末“了”同时出现的几种“例外”, 主要主张以下两点。(一)“就”“才”两个副词, 除了表示客观的数量或时间轴上预期值的方向性对立之外, 有时还表示主观性评价轴上期待值的充足与不足之间的对立。(二)“了<sub>2</sub>”的认知图像是“超过某种变界点”, 与“就”的认知图像相一致, 而与“才”的认知图像相矛盾。

**中国語キーワード:** 客观数值轴, 主观评价轴, 期待值, 正负方向